

## VI 成果と課題

### 1 成果

(1) 児童は「わかる喜び」を味わって学習し、学力が付いたのか。

CRT 学力検査の結果から、昨年度までは、全国平均値よりも低い傾向が見られたが、少しずつ改善が図られ、ほとんどの学年で技能面や知識理解面での学力の伸びが見られるようになった。

また、5年生に関しては、県の学力調査において県の正答率を大きく上回る結果が見られた。

これらは、学習の中で児童が見通しを意識して問題解決に積極的に取り組んだ成果といえる。

(2) 算数的活動等をとおして、思考力・判断力・表現力は身に付いたのか。

CRT 学力検査の結果から、ほとんどの学年で数学的な思考力の伸びが見られた。

これらは、児童に目的意識をしっかりとめた算数的活動や説明活動などを充実させた成果といえる。

(3) 児童の算数に対する意識はどう変わったのか。

算数アンケートでは、約70%の児童が「算数がとても好きもしくは好き」と答え、「算数の学習がわかる」と答えた児童の割合も約85%を示した。また、算数ができるために大切なことを自ら意識できる児童が増えてきた。

割合が高い項目

- ・ 計算練習をたくさんすること
- ・ 問題文を正しく理解すること
- ・ 今まで学んだことを忘れないこと
- ・ あきらめずに考えること
- ・ 教科書やノートを見直すこと
- ・ 予習復習に取り組むこと
- ・ 授業中、きちんと先生や友達の話聞くこと など

### 2 課題

全体的に学力の向上は見られるが、支援が必要な児童もいることは確かである。児童が見通しをよりよくもてるようにするためには、各学年の学習内容を確実に定着させ、系統性を意識させることが大切である。また、児童アンケートで自分の考えを説明することへの意識がまだ低いこと（58%）がわかった。自分の考えを深めたり、集団の中で考え方を広げたりすることができる「言語活動のよさ」を児童が実感できるように授業改善を今後も図っていくことが大切である。